

令和7年度第7回 感染症発生動向調査協議会

議事概要

1 日 時 令和7年10月15日（水） 14：00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員：馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）

川本 典生（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授）

澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）

加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 院長）

和泉 孝治（岐阜県産婦人科医会 岐阜地区 理事）

事 務 局：酢谷 奈津（感染症対策推進課 感染症対策係長）

野池 真奈美（保健環境研究所 主任専門研究員）

吉田 菜穂（保健環境研究所 専門研究員）

4 議 題（進行：澤田委員）

（1）前月の感染症発生動向について

（2）検討すべき課題について

（3）情報提供すべき事項について

（4）その他（感染症対策推進課から）

5 議事概要

【前月の感染症発生動向について】

・事務局からの説明は資料のとおり。

月番委員のコメントについては資料のとおり。

・（委員から）今年の百日咳の感染者が飛び抜けて多くなっており、他の呼吸器感染症と同じように地域性を見ていくことになると思います。圏域ごとに人口で割ってみると、実際にこの圏域で感染者が多くかったとか分かるのではないかと思っています。例えば、一番感染報告数の多い10代の患者などに絞って、その年代の人口を分母としてみてみると傾向が見えてくるかもしれません。

・（委員から）小児科では百日咳を診ることに慣れていて、診断漏れが少なくトレンドが反映されやすいですが、成人の場合は医師が積極的に検査をするかどうかによって報告数がばらつく可能性があります。

【検討すべき課題について】

○インフルエンザの流行入りについて

・（感染症対策推進課より）第40週、9月29日から10月5日までの一週間で、インフルエンザの定点当たりの報告数が1.07となつたため、流行入りとして公表しました。全国よりは1週遅く、県内の昨シーズンよりは1週早く流行入りとなりました。

・（委員より）（定点医療機関数が異なっているため）昨年と同じ状況かは分かりませんが、大きなズレ

はないですね。コロナ前は流行入りがもう少し後で、1を超えたたら患者がどんどん増えてくる感じでしたが、最近では早めに1を超えるけれど本格的な流行はもっと後になる傾向があると思います。

- ・（委員より）感染症に対して気を付けたり、休む時はしっかり休んだりという対策をしているので、ある程度ぎりぎりバランスが取れている時期があるのかもしれません。その上で、本当に患者数が増えてくると破綻して流行したり、学校の休み明けなどのきっかけで流行ったりするのではないか。・（事務局より）流行入りについて、かわら版を発行します。今後は注意報、警報が発表されるのに合わせて啓発をしていく予定です。

○麻しん風しんの定期接種の状況について

- ・（感染症対策推進課より）麻しん風しんワクチンについて、昨年度の全国の接種率データが公表され、接種率が下がってきてるので積極的な接種勧奨をしてくださいという通知がありました。令和6年度の全国の接種率について、第1期が92.7%、第2期が91.0%となり目標の95%を下回っています。特に岐阜県では第1期が91.7%、第2期が89.8%で、いずれも全国平均よりも低くなっています。ワクチンの供給が少ない影響があるかもしれません。
- ・（委員より）保護者と話をしていると、油断をしている人がいるような印象を受けます。
- ・（委員より）ワクチン接種について、正しい情報発信を続けていくことが重要だと思います。